

2013年末賞与の見通し

— 一人当たり支給額が5年ぶりのプラスへ —

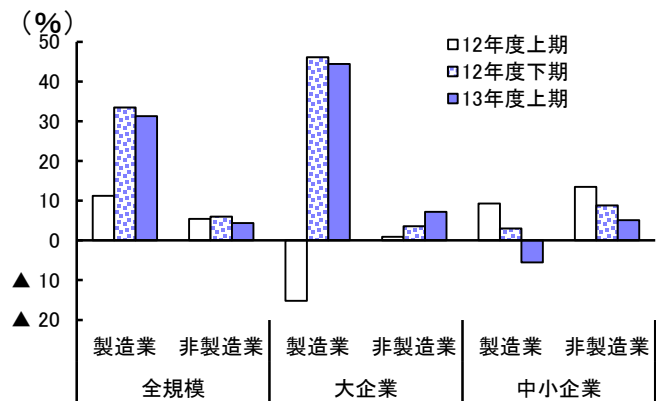
- (1) 今冬の賞与を展望すると、民間企業の一人当たり支給額は前年比+0.7%と年末賞与としては5年ぶりのプラスに転じる見込み(図表1)。
(*)厚生労働省「毎月勤労統計」事業所規模5人以上ベース。
- (2) 背景には、円安の動きなどを受けた2013年度上期の企業収益の持ち直し(図表2)。加えて、デフレ脱却に向け、労使ともに徐々に高まりつつある賃上げ機運の盛り上がりも賞与押し上げに作用。もっとも、円安効果、株高や消費者マインドの改善を背景とした消費持ち直しのプラス効果は一部の製造業大企業等に限られるため、全体としてのプラス幅は限定的。賞与額のベースとなる所定内給与の減少傾向が続いていることもマイナスに作用(図表3)。
- (3) 支給総額は、+2.0%の増加となる見込み(図表4)。一人当たり支給額の増加に加え、支給対象者が、景気の回復傾向を受けて増加を続ける見込み。
- (4) 国家公務員は、+0.9%の増加となる見込み。人事院勧告に基づく賞与水準の変動はないものの、平均年齢の上昇などによる平均給与月額が増加が押し上げに作用。

(図表1) 2013年末賞与(一人当たり)の見通し

	民間企業			国家公務員
	製造業	非製造業		
2012年夏季(実績)	▲ 1.4	▲ 3.1	▲ 1.0	▲ 9.2
2012年末(実績)	▲ 1.5	▲ 3.2	▲ 1.1	▲ 8.4
2013年夏季(実績)	0.3	0.1	0.3	2.0
2013年末(予測)	0.7	2.4	0.3	0.9
支給額(万円)	36.8	47.6	34.6	57.0

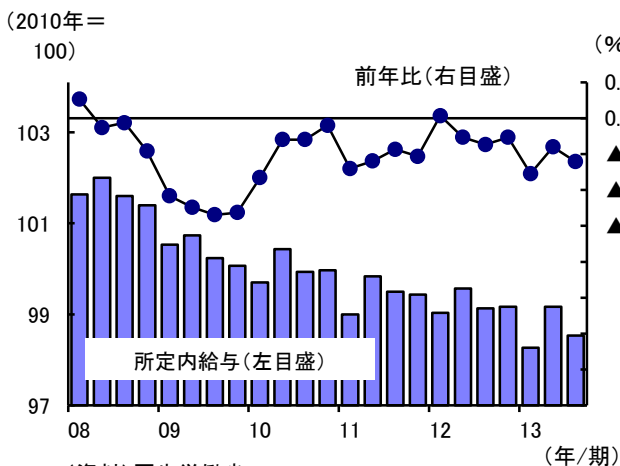
(資料)厚生労働省、総務省、人事院、予測は日本総合研究所

(図表2) 業種別・規模別の経常利益(前年比)



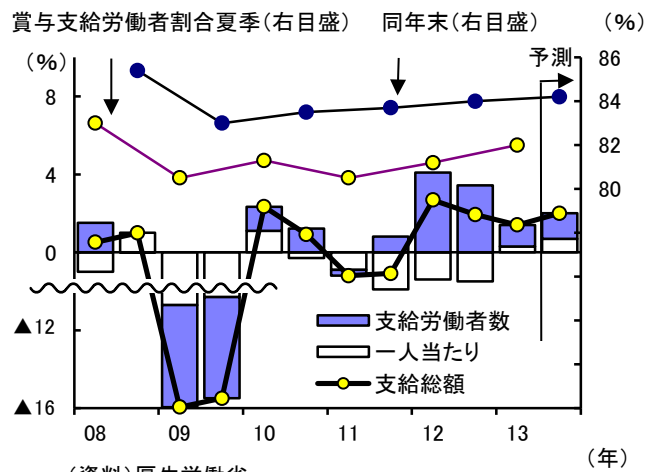
(資料)日本銀行

図表3 所定内給与の推移



(資料)厚生労働省

(図表4) 賞与支給総額(前年比)



(資料)厚生労働省